

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

4

2017
APRIL

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた



第47回中小企業問題 全国研究集会in鹿児島

経営維新は薩摩からでござす! 一緒き語りもんそ!

第22期経営指針をつくる会開講

現状認識を深めて経営理念の作成をめざす

食・農部会

エネルギーでまちづくり、紫波町ツアー

山形同友会!
未来へ向けて、
新たに!!
より地域に
必要な存在へ

2016年度スローガン

経営維新は薩摩からでござす！ 一緒に語りもんそ！

2月16～17日、鹿児島県鹿児島市城山観光ホテルに於いて、第47回中小企業問題全国研究集会 in 鹿児島が「強靱な企業づくりが日本の未来を切り拓く！～経営維新で夢あふれる中小企業 実践しよう『人を生かす経営』～」のスローガンで開催されました。山形同友会から3名、全国各地からは1189名が一同に集い学び合いました。

1日目は2つの見学分科会を含めた13の分科会と懇親会、2日目は窪田織物㈱ 代表取締役社長 窪田茂氏から「伝統を守り革新し続けるローリング型経営～激減した大島紬業界で世界への果敢な挑戦～」と題した記念講演や同友エゴ表彰式などが行われました。参加された方々から報告が届きましたのでご紹介いたします。



第47回中小企業問題全国研究集会in鹿児島

社会保険労務士法人西塔事務所 西塔秀幸氏

「強靱な企業づくりが日本の未来を切り拓く！～経営維新で夢あふれる中小企業 実践しよう『人を生かす経営』～」のスローガンのもと、鹿児島市で開かれた第47回中小企業問題全国研究集会に参加してきました。

会場には1時間以上前に着き、いろいろと思いめぐらしていたのですが、「グループ長はお集まりください、打ち合わせをします」のアナウンス。「グループ長の役割が重要」と言われていますが、早く来て準備している姿に感銘を受けました。

私は第1分科会「『中小企業が主役』の日本経済へ～情勢をどう読み企業経営と同友会運動に生かすか～」に臨みました。報告者は嘉悦大学大学院ビジネス創造研究科研究科長の三井逸友氏でした。



私が学びを得た点をいくつかご紹介いたします。

- 最高の「情報形態」としての貨幣と金融は、完璧にボーダーレス化・瞬時化される。
- 「企業」もヒトの構成物であり、ヒト同士の関係・コミュニケーションによって支えられ、ひいては固有の「企業文化性」があれば、容易に「ボーダーレス化」するわけではない。
- 個々の仕事と、企業自体の「つよみ」「よわみ」、そして世界的・社会的な存在意義が問われている。

先の見えにくい時代にこそ、考えるべきこと

- 世界的に金融バブルがはじけ、混乱が続く中、実体経済の実力が問われている。
- 「正社員」がすべてなくても、しっかり学び、成長できる仕事の機会(キャリアの形成)とそれに応じた地位が大事である。
- 重要なのは、ひとりひとりのもてる力、知識・智恵と経験の蓄積であり、人材力を育て、生かし、創造と発展ができる企業である。

「中小企業憲章」から導かれたもの

- 間違いなく、2010年「中小企業憲章」は生きている、活用されている。政府中小企業庁は、「憲章」の理念・原則・課題に合わせて新たな政策体系と個別施策を立案実行してきた。

全研に参加して

(株)ティスコ運輸 菅原茂秋氏

2月16、17日で中小企業問題全国研究集会in鹿児島に参加してまいりました。桜島が一望できる城山観光ホテルでの開催となりました。

分科会は第5分科会を選択し、(株)シティーラインの田浦社長の報告を聞かせていただきました。物流業界の価値創造についての体験報告でした。以前は様々なお客様の共同配送をされていた企業から、詳細な現状分析から今後拡大するであろう業種へ特化するという大きな決断をし、綿密に戦略を練り具現化されたお話しでした。田浦社長の実行推進力には感銘を受けるばかりでした。

現在メディアでも取り上げられている消滅予測業種がありますが、事業定義を見つめ直しの領域でどのような価値創造をしていくのかを明確にし、戦略を練ることの重要性を痛感しました。まさに同友会経営指針が必要であると感じました。また、今回の全研の分科会から取り入れられたコーディネーターの存在によって、より報告者の内容が深掘りされ、より学びが濃いものとなりました。



翌日の記念講演は大島紬のブランディングについてのお話しでした。こういった古い伝統を持った商品となると、つついそれを守り伝えていくことばかりに傾注しがちですが、大島紬の持っている価値を新たなものに応用するなどして、斜陽産業化していた業種を生き返らせるという成果を残されました。まさに今の時代に求められる事例にふれ、自分の事業はもちろんのこと、他業種でも応用可能な内容が盛りだくさんで充実した全研となりました。

第47回中小企業問題全国研究集会in鹿児島に参加して

寒河江物流(株) 後藤智樹氏



3年ぶりの鹿児島です。正面に見える桜島は噴煙はなく穏やかな表情でした、黒豚しゃぶしゃぶの誘惑を断ち会場の城山観光ホテルへ。

まずは分科会へ、私が参加したのは第5分科会。同業者の(株)シティーラインの田浦社長の報告です。人口減少社会で中小企業が存続するために、売上を追いかけるより、扱うものやエリアを絞り込み、総合から専門へと戦略を変えていく。つまり、価格競争から価値競争へもっていくために市場を絞り込んで、深掘りして他社には出来ない新たな市場を創り、競争優位性を保つのです。興味深いのは、その

ことにより教育内容もスキル教育だけでなく、コミュニケーション教育や価値観教育にも注力しているということでした。私の「お客様から経費としてではなく価値としての仕事をする」という考えに近いこともあり、自社の戦略の確認と新たな学びと気づきを得ることができました。

グループ討論では自社の強みについて、やはり最後には人に行き着くのですが、様々な人の育て方についての話が飛び交いました。今回の分科会の特徴として、報告者とは別にアドバイザーを立て、報告者の後にその事例を分析解析してくれたのでとてもわかりやすくなっていたことです。

翌日の記念講演は、激減していく大島紬の業界で奮闘と挑戦により、その市場を新たに創っている窪田織物(株)窪田社長の報告でしたが、印象的なのは伝統と革新はセットだということでした。ただ同じことをして守っていくだけでなく、伝統は守りながらもITを取り入れて生産性を上げたり、着物だけではなく子供服や小物にも取り入れて新たな市場を創ったりしてきたということです。

今回も多くの気づきと学びをいただきました。皆さんもどうぞ全国行事へ！

現状認識を深めて経営理念の作成をめざす



3月11日から12日にかけて、第22期経営指針をつくる会(経営指針委員会主催)が受講生4名を迎えて開講しました。経営指針書は社員との共有が大切です。今期は新しくなった「経営指針成文化と実践の手引」をテキストとして、社内でのキックオフ宣言をする機会を設け、作成段階から社内への浸透を図ることに取り組んでいきます。

冒頭、菊池経営指針委員長が「これから経営理念・ビジョン・方針・計画と作成していきます。新しい手引きには10年ビジョンの作成が新たに加われました。理念・ビジョンと現状の両方向から追い求めていくことが大事と感じています。理念の想いに数字をどう一致させて、改革していくかです。良い会社にするために頑張ってください」と述べました。

同友会らしい経営指針

第1講では東洋産業㈱代表取締役玄地学氏(宮城同友会副代表理事・中同協経営労働副委員長)が「同友会らしい経営指針の確立～現状認識を深め、経営理念作成をめざして～」と題して講義しました。

玄地氏は労使見解に触れ、「経営者の責任、社員は最も信頼できるパートナーとよく言うが、売上目標やビジョンは掲げているものの労働環境については見て見ぬ振りをしていないか」と問いかけました。

その上で、「同友会らしい経営指針とは①経営者の想い(生き様)を理念にこめる②経営者自らの責任を明確にする③社員を最も信頼できるパートナーにできるか④科学性・社会性・人間性の視点」と語りました。

現状認識を深める

経営指針作成においては現状認識が大切で、情勢認識にあたっては新聞記事をそのまま受け取らず、地域や業界において押さえておく点をしっかりと掴む必要がある。また、同友会の仲間との近況報告や中小企業家しんぶんの情報が役に立つと紹介しました。

さらに、「現状認識ができない」という話をよく耳にする。その理由は『自社の問題を課題にできていない』『あるべき姿と現状のギャップ』であり、社内で社員の話しに耳を傾け、問題を課題にかえなければならない。それから現状から現状を見たら何も見えない。将来のあるべき姿である経営理念・10年ビジョンからみた現状のギャップを掴み、3年、5年の計画を立てていくこと」と述べました。

企業の継続・発展のために

労使見解の具体的な実践が重要で、企業の継続・発展のためには「自社の進むべき方向性として経営理念を示す(経営者の責任)」「自社の経営課題を解決する(計画と実行)」「社員の働きがい(自主的行動・社員を主役に)」「社員を最も信頼できるパートナーにする(労使見解)」「価格決定権が持てる商品・サービス(付加価値)」「長期的な人事政策(10年ビジョン)」「地域とのかかわり(雇用と納税)」を挙げました。そして、「こういうことを総合的に経営指針書に盛り込み実践することが我々中小企業家に求められている」と提起しました。

その後に行われたグループ討論で「経営の目的」と「どんな会社をめざすのか」を考え合った受講生は経営理念とビジョンの作成を行いました。

これから受講生は9月の発表会に向けて、自分と会社を見つめて経営指針書の完成をめざします。





食・農部会 報告 エネルギーでまちづくり、 紫波町ツアー

2月13日から14日にかけて岩手県紫波町視察ツアーを開催しました。食・農部会員を中心に地域活性委員会と共催事業として、天童市の若手農業生産者2名のゲストも含め、総勢10名にて訪問しました。今回のツアーの主な目的は、紫波中央駅前都市整備事業である“オガールプロジェクト”の中心地であるオガールエリアの視察です。具体的には地域の資源が生み出す“極寒の中の暖かさ”を体感しに行ったのですが、幸運？にも晴天に恵まれ、2月としては異例のポカポカ陽気で寒くなかったのが逆に心残りです。

さて、初日は岩手同友会代表理事でもある信幸プロテック(株)取締役会長 村松幸雄氏より「エネルギーでまちづくり～自分たちで地域を元気にする“しくみ”～」のテーマでご講演いただき、その後グループ討論を行いました。

講演はエネルギーシフトには4つのステップ、省エネ→小エネ→生(創)エネ→商エネがあることを前提に、様々な角度からの環境に対する現状認識から始まり、「このまま温暖化に向かうとどうなってしまうか？」や、家庭におけるエネルギー消費(浪費)の現状を例に、いかに改善点があるかを確認しました。そこに気づくことから省エネの意識が始まり、小エネにつながります。ここまで来ると必然的に“仕事”が伴ってきて、地域の仕事づくりに貢献できている可能性が大いにあると感じました。住環境、車社会の観点から具体例を挙げていただき、建物の熱漏洩対策やトラックにつける発電モジュールに地域での新しい仕事づくりに繋がる可能性を感じるとともに、消費側にとっては環境対策のみならず省(小)エネとなり出費が抑えられるメリットもあります。そして自然エネルギーの活用で生(創)エネの楽しさを体感し、地域を挙げて商エネに繋がっていけばエネルギーの地域内循環にも繋がります、持続可能な地域に一步近づくのではと感じました。

2日目はオガールエリア内の施設を視察しました。地元

木材を使い地元の建築業者が造ったオガールベース(複合施設、まるでヨーロッパのような素敵な建物)の成り立ちのレクチャーを受けた後、この地域の熱供給を担うエネルギーステーションを見学。地域の木材チップを地域の人が運び、地元開発のボイラーで燃焼させ、隣接する町役場やオガールベース、一般住宅に地下に埋設されたパイプを通じ“暖かさ”を送り出していました。その取り組みで、それぞれの施設に新たな雇用が確実に生まれ、特に飲食店では若い方々が生き活きと仕事をしていたのが印象的でした。オガールエリアには“にぎわい”がありました。また、新たに整備された住宅地には約400名の新たな定住者を増やしております。我々が宿泊したホテルにはバレーボールに特化した体育館が併設されており、オリンピック仕様のバレーボールコートが完備されておりました。私もブロックをまねてジャンプしてみましたが、クッションが素晴らしく興奮してしまいました。全日本チームの合宿も行われるなど、“特化”する戦略が稼働率9割に繋がっているとのことでした。このピンホールマーケティングという手法は地方町村にとっては非常に参考になる事例ではないでしょうか。

今回、様々な視点から学ばせていただきましたが、私が一番印象に残っているのはオガールプロジェクトのレクチャー時に見せていただいた1枚の写真です。それは、まだ何も無い頃の駅前写真でした。この時、この構想を提唱された前町長は、今の街並みを、賑わいを、人々の笑顔を、描いていたものがしっかりと見えていたのだと思います。それこそ我々経営者の仕事ではないでしょうか。

これからも食・農部会では“感じる”学習会を企画して参ります。蛇足ではありますが今回も食・農部会らしく岩手の“おいしいもの”をたくさん堪能させていただきました！是非皆様のご参加をお待ちしております。

食・農部会長 齊加義三 (齊加商店)

女性目線をコンセプトにしたお店づくりに学ぶ

3月22日、第6回女性部例会が開かれ、12名が参加しました。会場は(株)カーサービス山形天童店として1月にオープンした落ち着いた外観の「CASA DOLCE (カーサドルチェ)」。店内はカフェイストの空間でお客様も楽しめるコーナーや地域の方々が各種会合などに借りることができるスペースが設けてあります。参加者は女性目線のお店づくりを実感しながら学び合いました。

女性の意見を生かして

赤塚女性部会長が第2回中同協女性部連絡会の報告をした後、(株)カーサービス山形代表取締役小川大輔氏が経営実践を報告しました。

はじめに小川氏は男性が買物をする際、奥様の影響が強くなっていることから20代から40代の女性をターゲットとしたお店づくりをしたことを紹介しました。

プロジェクトの構成メンバーには、女性社員と退職して子育て中の方々もお願いしました。「特別感がある」「居心地が良い」「安心感がある(子育てをする母として)(中古車に対して)」お店づくりを追求してきたこと。そして、女性社員を巻き込んで新しいお店づくりをしたことによって、女性社員にワクワク感が生まれ、いろいろな意見が出されるようになったと語りました。

社長の仕事を学ぶ

このように女性社員の意見を聞くようになったのも経営指針づくりがきっかけです。3年前に同友会へ入会した小川氏は経営指針作成セミナーを受講したことで、「経営者の覚悟が意識として大きく変わり、社長の仕事が少

し分かってきた」と述べ、「まずやってみる」「経営者としてビジョン、使命感を持たなくてはならない」「地域になくなくてはならない企業にする」「社員の家族も考えるようになり、社員とのかかわり方をもう一度見つめ直した」「問題や課題に真っ向から立ち向かうようになった」を変化させたこととして挙げました。

さらに、働き方改革を進め、女性社員の比率を増やし、管理職に登用していきたいと、今後について語りました。

引き続き行われた質疑応答では、経営指針づくりについての質問が多く出されました。

小川氏は「父親が創業した会社を自分の代でつづすわけにはいかないと考えてやっていた。現状維持では企業は衰退してしまう。利益をどう上げるのかより、この会社をどうしたいのかを考えるために経営指針づくりをした。自社は何なのか。社員はなぜ働いてくれるのか。そして、地域によって生かされてきたことに気づいた」と語りました。

それを受けて赤塚部会長は「同友会には自社だけではなく地域をみんなでよくしていこうという考え方がある。ぜひ例会・全県行事へお誘いして仲間を増やし、学びの輪を広げていきましょう」と語り、6月に富山で開かれる女性部全国交流会への参加呼びかけを行いました。

最後に白鳥前部会長が「私もいろいろなことから、守りに入っていたことを今日、気づかされました。女性は家庭も仕事も頑張ってしまう傾向があります。自分をケアする時間を持ちながらみんなで学び、頑張っていきましょう」と閉会挨拶を述べました。



山形県中小企業家同友会 第33回定時総会

日時: **4月26日(水)**

受付:午後12時30分 開会:午後1時

会場:パレスグランデール

山形市荒楯町1-17-40

TEL.023-633-3313

参加費: ①総会 **無料**

②記念講演・グループ討論
2,000円

(会員同伴の社員は無料)

③懇親パーティー **6,000円**

タイムテーブル

第1部 定時総会 13:00-14:35

第2部 記念講演 14:45-16:35

グループ討論 16:45-18:30

第3部 懇親パーティー 18:45-20:30

記念講演

テーマ

**社員の可能性を引き出す経営者の役割
～社員教育は社長教育～**

講師:岡山トヨタ自動車株式会社

代表取締役社長 **梶谷俊介氏**

(中同協社員教育委員長・岡山同友会常任相談役)

1991年に同友会入会。会員の真剣さに圧倒される。店長教育に最適と思い店長を同友会に入会させ、自身は同友会から遠ざかった。社員教育大学には幹部が社員を連れて参加していた。1998年に復帰し、2006年に社員教育委員長となって初めて社員教育大学に参加し、同友会の社員教育は「社員教育を通じて経営者が育つことが真髓」と気づきます。労使見解やユネスコ学習権宣言にも照らして「経営者は社員の可能性を引き出す場や環境をつくることが大切」と語る梶谷氏の取り組みから同友会の社員共育の原点を学び、人を生かす経営の総合実践を考えます。

支部総会のご案内

第31回山形支部総会

2017.5.18(木)

場所:山形国際ホテル

山形市香澄町3-4-5 ☎023-633-1313

報告者:信幸プロテック(株) 取締役会長 村松幸雄氏

第23回さくらんぼ支部総会

2017.5.30(火)

場所:タントクルセンター

東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

第21回置賜支部総会

詳細は後日お知らせいたします。

第31回寒河江支部総会

記念
講演

**「企業を受け継ぐという事」
～何を託し、何を受け継ぐのか～**

2017.5.16(火)

場所:ホテルシンフォニー本館

寒河江市元町1-3-13 ☎0237-86-2131

講師:(株)伸電 代表取締役 佐藤弘樹氏

今、中小企業にとって大きな課題のひとつが事業承継です。

創業者である前社長の原田氏は、創業時に世襲はしないと決め、誰でも承継できるような企業を創ってきました。しかし、いざ承継となると計画通りには進みません。喧々譁々の話し合いと実践を重ねた結果、信頼関係とともに新しい企業価値を見出していきます。世襲でも難しい「事業承継」。社員という立場から企業を受け継いだ佐藤社長の報告から、「受け継ぐという事」を改めて捕らえなおし、「事業を承継すること」とは、何を受け継ぐのか、また次代に何を受け継いでもらうのか。そのために何を考え、今何をすべきなのかを考えます。

第13回庄内支部総会

2017.5.24(水)

場所:グランドエルサン

鶴岡市東原町17-7 ☎0235-24-4633

講師:株式会社リンケージM.I.コンサルティング
代表取締役 長谷川博之氏(新潟同友会)

第3回新庄最上支部総会

詳細は後日お知らせいたします。

第11回理事会報告

◆日時:2017年3月8日(水)午後3時~午後5時 ◆会場:山形県産業創造支援センター ◆議長:菅原代表理事
◆出席者:(敬称略)西塔、菅原、越前屋、齋藤、菊池、阿部(和)、小林、玉津、白鳥、阿部(秀)、庄司、佐藤(知)、武内、赤塚、斉加、小川、事務局矢作、高橋

■開会挨拶(西塔代表理事)

西塔代表理事が「ご苦勞様です。いよいよ3月で締めです。私は挨拶で「同友会運動の発展のために」や「経営体験」を話しています。来期からも続けますので、よろしく願います」と語りました。

■報告事項

- 1)第47回中小企業問題全国研究集会(2/16~17 鹿兒島)
情勢がテーマの第1分科会に参加。世界が最高の条件に対して貨幣・金融などボーダレス化・瞬時化。人間の情報は瞬時にはならない。いつまでたっても情報を生み出し利用する主役の人間個々はボーダレス化もしないという矛盾がある。トランプ大統領の件もあり将来がまだまだ見通せないと報告がありました。(西塔代表理事)
- 2)福島同友会創立40周年記念総会(2/24 郡山)
間もなく二千名となる福島同友会について「福島同友会は何故伸びているのか、未だもって分からない。ただ着実に伸びている。大部分の会員が同友会は良いと思っているから周りの人に広げるのではないか」という幹事長の開会挨拶が印象的でした。3月5日号の中小企業家しんぶん「多様性が生む先進性、その先進が源泉となって同友会の独自性を際立たせている」と書いていますが、独自性の大切さを感じてきました。(西塔代表理事)
- 3)中同協・女性部連絡会(3/2 大阪)
全国の参加者と女性部活動について交流しました。この十年位で内閣府との連携が深まり、APECで糸数代表と中同協の平田事務局長が発表する機会があるなど、素晴らしい活動が毎年行われている。その反面、各県の女性部活動や女性の社会進出という話になるとギャップが大きい。また各県の女性部の組織力のすごさも感じてきました。(赤塚理事)
- 4)北海道・東北ブロック事務局長会議(2/24~25)
中同協からは、全国の同友会で合同の取り組みが自主的に始まり、課題もできてきていること、それと財務委員会での同友会における消費税対応に関する説明があり、山形でも事業収入にあたるものの把握、例会参加費や懇親会の領収証の取り扱いの現状から会計幹事と相談して進めていきます。(矢作事務局長)
- 5)エネルギーでまちづくり紫波町ツアー(2/13~14 紫波)10名参加
一日目は岩手同友会の村松さんからエネルギーシフトについてのお話をいただきました。視察した紫波町は盛岡市のベッドタウンで、枯れた赤松をペレットとして住宅や公共施設にエネルギーを供給している。活用でも商品券という形で配布している。商品券は紫波町以外では一切使えず、地域の活性化に生かしてほしいという意図がある。エネルギーによって活性化している状況を目の当たりにしてすごく感動して帰ってきました。(越前屋理事)
- 6)第22期経営指針をつくる会(3/11開講)
受講生は四名で少ないですが、時間をたっぷりとって今まで以上に濃い時間を過ごせると思っています。また、今期から「経営指針成文化と実践の手引き」も新しくなり、それを使っていきます。(小川理事)
- 7)就職企業説明会(3/23 山形テルサ)
3月23日に第三回目の合同企業説明会を開催します。25社参加で、1社がスポット参加です。学生の参加が全国的に少なくなっており、現在委員会では就職情報誌を持って学校に案内しています。(玉津理事)
- 8)合同入社式・新入社員研修(4/6 山形ビッグウイング)
4月6日に山形ビッグウイングで行います。現在の申し込み状況が13社、経営者同行者が15名、新入社員が25名で計40名となっております。昨年、約70名ですからこれから増えていくという風に思っています。(阿部理事)
- 9)2016年度2月月次決算報告について(矢作事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 2名入会 1名退会 3月8日現在418名

■討議事項

議題1:新春交流会のまとめ

実行委員長を務めた佐藤理事が「沈潜の風」をスローガンとして社内らしさにこだわり実践することをメインテーマに記念講演・グループ討論で学び合った新春交流会のまとめ案として特徴、収支報告を提案し承認されました。

議題2:第33回定時総会について

小川理事より開催目的、参加費、記念講演のテーマ、各支部の参加目標、予算案が提案され承認されました。

議題3:第3次中期ビジョンについて

阿部理事が第2次中期ビジョン総括、第3次中期ビジョン方針、方針に基づいた委員会・部会・支部の実行計画を提案し承認されました。支部、委員会・部会の管理項目を設定し、理事会に報告し進捗を共有していきます。

議題4:議案書の作成にあたって

1)2016年度活動のまとめ(案)について

各委員長・部会長が加筆された委員会・部会の活動のまとめのポイントを説明し、承認されました。

2)2017年度活動の方針(案)について

西塔代表理事が前文について、各委員長・部会長が新年度方針のポイントを説明し、「地域社会の主役としての自覚と誇りを持つ!~経済を牽引するのは私達だ~」をスローガンとした2017年度活動方針(案)が決まりました。

3)全県行事について

西塔代表理事が全県行事の経緯と支部開催意義と運営方法について説明した上で、全県行事の支部開催について提案しました。各支部から意見が出され、地域の活性化と支部の結束を目的として新春交流会から取り組んでいくこととし、支部主幹をスタートする時期はもう少し時間をかけて検討することになりました。

4)2017年度理事(案)について

次回理事会で決定します。

5)2017年度予算(案)について

次回理事会で決定します。

議題5:役員選考委員選出の件

次回理事会で決定します。

議題6:事務局員採用について

西塔代表理事より3名の応募と選考の経過が報告され芳賀将馬さんの採用を決定しました。

議題7:入会資格について

次回理事会で検討します。

■その他

1)今後の行事予定

中同協・第4回幹事会	3月10日(金)東京
東日本大震災復興推進本部REES視察ツアー	3月16日(木)~17日(金)宮城
第22期経営指針をつくる会	3月11日~12日 ホテルシンフォニー
春の就職企業説明会	3月23日(木)山形テルサ
合同入社式・新入社員研修	4月6日(木)山形ビッグウイング

2)第12回理事会日程

- 日時:4月12日(水)午後3時~午後5時
- 会場:山形県産業創造支援センター

新会員紹介

とびつか 飛塚有希子氏

有限会社 飛塚塗装店
一般建築塗装業
山形支部

めくい 明日 知子氏

asuyoga アスヨガ
代表 ヨガ・ファスティング
指導・タイ古式
山形支部

会員名変更

- 有布施弥七京染店 代表取締役社長 布施将光氏
→専務 布施将英氏(山形支部)

社名変更

- ハンズバリュー → ハンズバリュー株式会社
代表社員 → 代表取締役 島田慶資氏(山形支部)

- 夢屋台 喜楽楽 → 大衆居酒屋 喜楽楽
代表 齋藤 潤氏(山形支部)

- イタリアンハウス ペコリーノ →
ペコリーノ スペリオール
代表 菅原 秀夫氏(さくらんぼ支部)

同友やまがた4月号(2017年4月1日発行/通巻289号)

From Editor



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp